

# 学校関係者評価報告書

## 1 自己評価の報告の概要

- ・ 保護者と教職員を対象にしたアンケートを実施し、保護者の結果では、全ての項目に関して肯定的な評価（A評価＋B評価：以下同じ）が90%以上であった。
- ・ 教職員については、90%を下回るものは、「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」であった（85.5%。前年は91.5%）。その他の項目は前年度と比べ大きな変化はなく、肯定的評価が90%以上であった。

### 【以下は保護者アンケートについて】

- ・ 回収率が76.8%から64.8%に減少した。
- ・ 昨年87%（A：41%、B：46%）であった「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」については、92.3%（A：36.1%、B：56.2%）とポイント改善した。
- ・ 昨年89%（A：45%、B：44%）であった「進路指導」については、92.3%（A：37.9%、B：54.4%）と3.3ポイント改善した。

## 2 評価委員の評価結果

- ・ （引継ぎについて）「支援の基本・本質（なぜ、何のためにするのか）」を教員間で押さえておくことが有効なのはなかろうか。
- ・ （一貫性について）全校で行う運動会や高等部のカフェなどは「高等部になった姿」を保護者が理解する良い機会。ぜひ続けてほしい。
- ・ 交流がコロナ禍以前に戻ってきた。小学部の居住地校交流は体験者が上がってきて保護者にも定着しつつある。中学部の交流では、交流先の中学生の普段では見られない姿が見られたり、優しく接したりするのでお互いに良い活動。

## 3 評価委員の提言

- ・ （アンケート結果の回収減少について）Googleフォームは集計しやすいが、回答率は下がる。（委員の勤務先でも）Googleフォームで行っていたが、紙媒体に戻すと回答率が90%台まで回復した。
- ・ （引継ぎについて）「写真や動画等の提示」は、良い取り組み。「視覚支援が有効」と記入された引継ぎ文書があっても「この子に対する視覚支援」は具体的に何か分かりにくい。そこを補うのが写真や動画なので有効だと思う。

## 4 学校関係者評価を踏まえた改善方策

### 「学部間での適切な引継ぎ・一貫した教育」について

- ・ 丁寧に作成された書類をもとに、写真や動画等の提示も加えながら、引継ぎ内容や時期等を精選・工夫する。
- ・ 「継続する支援」、「年齢に応じて少なくする支援」について、保護者に最初の懇談で確認する。
- ・ 小中高の接続について、各学部の保護者が他学部の様子を見ることができるような行事等の機会をより充実する。
- ・ 他学部の指導方針や実態について理解が深まるように、教職員の校内での交流体験の在り方をより工夫したり、児童生徒同士の交流の機会をより多く設定したりする。